

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

議会広報広聴調査会記録

平成 30 年 11 月 16 日(金)

9 : 58 ~ 11 : 28

議 会 第 3 委 員 会 室

- 【出席者】 小川委員長、川上副委員長、
三浦委員、沖田委員、西川委員、村武委員、笹田委員、芦谷委員、
田畑委員、澁谷委員
- 【事務局】 篠原次長、近重書記

議題

1 地域井戸端会議について

(1) 報告書について…………… 資料1

(2) 反省点について…………… 資料2

(3) 提出された意見等の取扱について…………… 資料3

- 議員間討論までに議会広報広聴委員会から議会運営委員会へ提出し常任委員会で討論する流れで手続きを行う予定
- 事務局が資料1の意見を常任委員会ごとに振り分け川上副委員長の確認を得る。確認後12月3日の議会広報広聴委員会へ提供し12月19日の議会運営委員会へ提出する。

(4) 今後の運営方法について

- 12月中に次年度の運営方針（特に開催時期）を決定

(5) その他

2 はまだ議会だよりについて

(1) 議会だより作成マニュアルの変更について…………… 資料4

- 11月16日締切で依頼している改正要望を集約して12月3日の議会広報広聴委員会で提示
- 本日の資料4の採択、不採択、保留について議会広報広聴委員会委員が記入し提出

(2) はまだ議会だよりVol. 52掲載記事について…………… 資料5

- 委員会報告について記載内容について検討
- 上記に併せて三浦議員から全体構成の提案書を提出いただき検討

(3) その他

3 次年度行政視察について

(1) 視察内容の検討について…………… 資料6

- 次回の議会広報広聴委員会（12/3）で時期を決める
- 視察内容は、議会広報広聴調査会終了後にメールする資料に記入して次回集約したものを提示する。※内容決定は行わない。

(2) その他

4 その他

- 市議会のホームページの画像を9月定例会最終日に撮影した開府400年記念ポロシャツ着用の画像に変更
- 井戸端会議で作成したプロフィールを議員ページに掲載

次回会議 開催予定日：平成30年12月3日（月）常任委員会終了後
※12月市議会定例会初日のため午後開催の可能性

【議事の経過】

〔 9時 58分 開議 〕

小川委員長	今日は欠席が多いですが、議会広報広聴調査会を開催します。今日の議題についてはお手元のレジュメをご覧くださいと思いますが、特に今回の議会報告会の報告書提出締め切りが9日で、それを受けて出来るだけ早い時期にとのことで日程調整しましたが、なかなか皆さんの条件が合う日がなくて結果的にこのように3名欠席の中で開催せざるを得なくなったこと大変申し訳なく思っています。皆さんが出席の時に次回日程等を決めた方が良かったと反省しています。今後日程調整については留意しながらやりたいと思いますので、ご理解をお願いします。
-------	---

1. 地域井戸端会について

(1) 報告書について

小川委員長	今日は地域井戸端会で出された意見等の扱いを中心に少し整理して、振り返りということをやっていきたいと思います。(1)から順に進めていきたいと思います。各会場の要望や執行部に投げかける問題、議員間討議に付す事項という形で、報告書について分けていただいたものがあります。近重さんから報告をお願いします。
-------	--

近重書記	(以下、資料をもとに説明)
------	-----------------

小川委員長	報告いただきました。執行部の照会事項の欄ですが、昨年井戸端会議を開催してなかったのですが一昨年までやった秋の井戸端会議は執行部の回答をもらってはいなかったことを失念しており、今までとは違う形で報告書をお願いした経緯があり、こういう形で分けていますが、やり方は今までのものを踏襲したいと思います。
-------	---

笹田委員	聞いても良いのではないですか。今までのやり方を踏襲する必要無いと思います。折角3項目に分けたなら執行部に共有出来るのであれば。
------	---

小川委員長	執行部には内容は全て報告しますが、回答まで求めるかどうか。今までそういうことが無かったのでどうなのかという意見があったので。
-------	--

笹田委員	春だ秋だと考えなくて良いと思います。
------	--------------------

小川委員長	今回変えるなら変えることも必要かもしれませんが。最初から出発点が違っていたのでつたなかったなど。
-------	--

笹田委員	来ていただいた人に要望をいただいて、少しでも聞きたいことはしっかり聞いて返してあげるのが筋だと思います。分かることは教えてあげて、分からないことは放置というのはおかしいのでは。確かに、前はテーマを
------	--

	決めてやったりしましたが今回はやり方が違ったので、進化していくものだし一つでも多く真摯に対応してあげるのが筋ではないかと思います。執行部も厳しいかもしれませんが。
澁谷委員	これ聞いても答えられないだろうというものはある。
笹田委員	確かに執行部が答えられない部分も一杯ありますが、正式に答えられる分はしっかり答えてもらった方が。議員間討議もそうですが、討論の内容に適しているかも含めてどうなのかなというのがありましたので。
三浦委員	この3つはどういう基準で割り振ったのですか。
笹田委員	記録員が。
三浦委員	記録された方が3つに分けて、それをそのまま割り振ったということですか。分かりました。
笹田委員	議員間討議とは何を求めてするかという意味で、難しいかと思います。
澁谷委員	分けてもらっているけど、これを常任委員会ごとに分けてもらえば良いなど。政策討論会に役立てるようなところの中の手法として分けて、委員会で揉んでももらいたいと思います。
近重書記	全ての内容をそれぞれ3常任委員会で分けて。
澁谷委員	あとは常任委員会に任せて。これを分ける必要は無いけど、今から政策討論会をするのに地域の声としてはこういう声がありましたと参考意見として委員会で揉んでもらう。
笹田委員	それなら議論の余地はあると思います。全員でやるのではなく、産業なら産業で政策討論するのはありかと。
田畑委員	その中で絞り込んで、全体で政策討論。例えば産業建設委員会に10個質問があった。それを産業建設委員会で練ってもらって2つが良いか3つが良いかは別として、また大きな問題があれば……。
笹田委員	ふさわしいかどうか委員会で議論して貰えば。
田畑委員	議論してもらったものをもって請願等へ持って来ないと。ここで話しても方向性が見出せないから。
澁谷委員	議員間討議の段があるけどどうするのか、どこが受け取るのかやったことが無いから宙ぶらりんになってしまいがちになる気がします。
小川委員長	今まで報告書の書き方も、出された意見をただ羅列するだけのものを出してもらっていたけど、正副でそれをどのように分けて執行部に投げかけるか、そういう扱いで今回分けて貰ったもので、きちんと分かれているかも報告者の方の思いで分けられていると思うので、それがそのまま議員間討議に移行できるかも分かりにくいです。ですから最初から井戸端会議

	で出された意見の着地点をどこに持っていくか、三浦さんから定義があつて、どのようにしたらスムーズに議員間討議まで持っていけるかを試行錯誤した中で今ここまでまとまっているのだけど、澁谷委員が言われるように3常任委員会にそのまま分けるのも可能だし、1項目ずつどこに分けるか検討すれば全部分かると思います。
笹田委員	3つではないです、予算もあるし、報告会自体への意見もあるからこの委員会もあるし。5つの常任委員会、もしくはその他です。5つプラスその他に分けておかないと、すんなり当てはまる所が無いものもあります。
小川委員長	笹田委員が言われた執行部の照会事項の関係は確かにそういう考え方もあるけど、こちらが勇み足だったとか一昨年のやり方がどうだったかを踏まえてからやっていたら良かったのだけど、仕分けが難しいということでそのように分けてもらった関係では執行部へ投げかける事項は別枠を作っていたのでこういう形になっていたのだけど、先ほどの形で言うと出された意見を分けていくことになる、敢えて執行部に投げかけて質問して聞くより、出された意見を議会で揉んで政策として提案する方が、秋の井戸端会議の流れとして進めた方が良かったのではという感じはしているのですが。
澁谷委員	そこまでこだわらずに笹田さんが言われたように執行部に一応聞いてしまえば良いのではないですか。昨年と変えても良いわけだし。
小川委員長	ということは執行部の照会事項の欄はどうしますか。これをそのまま投げかけるのも少し酷な気もしますが。
澁谷委員	16個もあればね、ちょっとあり過ぎかなという感じもしないでもないですが。
笹田委員	例えば美川での執行部照会事項8番などは、要望にも当てはまります。
小川委員長	そうですね、それは報告者それぞれで違うもので。
笹田委員	そうなのです。「何々して欲しい」というのは皆要望ですから。
田畑委員	8番は県の事業で田橋町、横山町でモデル事業でしてある。それには美川地区の集落協定を結んでいないと出来ない。それをして欲しいと言うのも分からなくはないが、そういったことが美川に伝わっていると思うのだから。
三浦委員	今回の井戸端会議の目的は、まず議員がある声をきちんと集めることで、集めた声の中から「これはきちんと議論するべきではないか」ということを抽出し議論していったそれを議会側として戻していくのが入口だったと思います。すると、聴いた声を執行部に投げて返すのは議会がそもそもど

という役割を果たしたのだろうか。ただただ通っているだけになってしまうので、そうすると執行部が井戸端会議を開けば良いではないか、ということになってしまいそうな気がします。ここの中から少し議論すべきものを抽出してそれに対して返してあげるとするのが良いのではないかと思います。全部に対して答えなくても良いのかなと、私はそういう考えです。何について議論するのかは各常任委員会が決めるのか、どういう形で決めるのかはあると思いますが、あくまで議会としての井戸端会議であったということ。

澁谷委員 先般三浦さんに紹介していただいて真庭市へ行ってから、ちょっと入れ子になってしまったところがある。その辺のところで……これをやっていくにはここで議論するより常任委員会が専門のところに振らないといけないでしょう。委員会の皆さんの方が詳しいことは多分にあるから。

三浦委員 きちんとこのような形で声を集めた、それを開催した広聴したというのが広報広聴委員会の1つの機能で、澁谷さんがおっしゃるようにその後の各項目についての議論はここではなく各常任委員会に振っていく、その振るプロセスをどのように考えるかです。

澁谷委員 その後に三浦さんから政策討論会の先進市をご紹介いただいて。議会基本条例の中で謳っているのに浜田市は政策討論会やってない、やらなければいけないという雰囲気の中でこちらが先行してやっておられて、どういう形で、これは去年の段階から政策討論会をやるという議長の意志があつて、急に各議員さんの中でということだから。こちらはこちらでやるのか、どう整理したら良いのか。

川上委員 基本的に井戸端会議については最初の説明の時に「皆さんのご意見はこういう形でお返しすることは出来ます」と言っているので、広報紙でやるのか、執行部から回答を貰って回答するのかを一言、二言言っているから、そのことに関しては少しはやっておくべきだろうと。そうしないと嘘つきになってしまうので。討論会については方向性としてはすごく良いと思うので、討論会でやってその答えを出すのもまた良いこと。まず執行部の意見を聞くもの照会するということはやった方が良くかと。

三浦委員 執行部に照会して返すというような案内していましたか。聞いたものを議員間で討議することになっています、討議したものをウェブや広報紙でお返ししますとは言っていたと思います。なので執行部に振ってその回答を返すとは言っていないと思うのですが。

澁谷委員 その辺のところが案のところ回答になっている9ページには。

川上委員	多分そうだろうという気がする。
澁谷委員	今までの流れがごちゃごちゃになっている。
笹田委員	議員で討議するような内容はもちろんしなければいけないけど、直接返せる問題等は執行部に聞いて返せばいい。
三浦委員	それはそれで良いと思います。
小川委員長	その辺りは常任委員会に振った後に、やはりこれだけは執行部に聞いてみようというのがあればやった方が良くと思う。この時点でもう分けてしまっている。
笹田委員	これを見ても、市が答えられないものとすぐ答えられるものがあります。後者は執行部に聞いて返してあげれば良いという話で。
小川委員長	そういう流れにしますか。
笹田委員	いくら聞いても答えが返ってこないものも一杯あるので。
澁谷委員	政策討論で議員間討議でやれば、今からだと春までかかる感じ。1つ回答してその後第2弾という感じでやった方が、自分の声に回答してもらったというイメージにはなる。
笹田委員	常任委員会に振ってもらって、常任委員会の中でしっかり話をしてもらってどのように回答するかということになれば、「これは恐らく執行部に聞いた方が早い」とか「議員でやらないといけない」とか、そういう話になりはしないかなと思いますが。
川上委員	全部を1回振った方が良くということだな。
小川委員長	そうしますか。
笹田委員	一応全部振って、扱いは常任委員会にお任せする。
三浦委員	ちょっと議会の仕組みを聞いてみても良いですか。これをどういう取扱いにするかも広報広聴委員会で考えるものなのですか。
小川委員長	そこなのよ。
三浦委員	それを各常任委員会で議論してもらおうというプロセス等を決定するのが政策討論会というか、流れや条例を見ると。だから広聴で意見を集めたよ、それを政策討論会に送ってそこで決めていただいて、常任委員会に振った方が良くとか、これはこうしようという、題目の抽出とか、そういうことをやるのがここなのか、それが分からなくて。どうなのですか。
	(「初めてやったから」 という声あり)
澁谷委員	もうやってもらわないと筋論を言ったらまた会議を招集して日にちをセッティングすることになるから。
笹田委員	三浦君が言うことも分かるけど、僕はここで決めて、ここに決定権が無

いので議会運営委員会が議会運営のことをやりますから、広報広聴の話し合いでこうなりましたと委員長が議会運営委員会に言って、議会運営委員会から各常任委員会に振って、その後に政策討論という話になるのかなと思っていた。三浦君の話は、それをどうするかという政策討論会をしなければいけないのではということですよね。

小川委員長

常任委員会に振る作業もここがやるべきか、政策討論会の幹事会には何の仕事があるのかなということもあるから……。

笹田委員

まず議会運営委員会でしょう。

澁谷委員

全ては議会運営委員会になるんですよ。そうすれば間違いは無いので。議会運営委員会は議会運営にわたる全てにわたる項目というのがあるから、困ったら議会運営委員会に上げれば間違いはないということにはなると思うけど。

澁谷委員

ある程度処理したものを貰えると良いのだけど。

三浦委員

議員間討議を行うことがゴールなので、それが常任委員会で議論されれば達成されたことにはなると思います。それをここから振るのか、プロセスだけ経て議会運営委員会に投げて振ってもらうのかが、委員長同士の中で決まっていれば。

澁谷委員

ここで例えば、委員会ごとに振ったものを1枚貰えば「それを振ります」と決めれば良いのだから。

三浦委員

それがスムーズならそれの方が。

田畑委員

初めてやるのだから要綱も何も無いよな。

篠原次長

政策討論会は一応あるのですが、なかなか……。

(以下、自由討議)

田畑委員

議会運営委員会に行ったり来たりしていたら時間がかかってしょうがない。

笹田委員

それなら話にならないから。

澁谷委員

今回のように皆の都合が合わないから招集が何だと、皆が都合がつく日にちとなると結構長引いたりして。

田畑委員

あまり時間が空いたらな。

澁谷委員

鮮度が落ちるというか。

笹田委員

今の話だと澁谷委員が言われたように、ここで常任委員会ごとに割って振りますが、常任委員会で何をしてももらうかもここで話しておかないといけないと思います。

澁谷委員

そこで抽出して三浦委員が言ったように議論してもらったら一応広報広

	聴の役目は終わることになって、その後に来年8月後半には政策討論会をやりたいので、それに役立ててもらおう方向で、委員会を月1回くらいでやってもらわないといけません。通年会期なのでより一層の目玉として。だから1回目で良い形になるかは分からないけどやらないと、試行錯誤の階段は登っていけないので。あまり完璧を求めずにやりながら考えるというか。
小川委員長	来年8月あたりなら8月あたりの政策討論会までは、政策討論会の幹事会としての出番は無いという形で良いのですか。
澁谷委員	またその時に各委員会から出ましたと。集まって、振って良いですかと確認してもらい、そこでまた議会運営委員会が出てきたりするのですがそれは形式的なというか。政策討論会は基本的には議長がさばく事と規則に書いてあるので。
田畑委員	井戸端会議で出てきたボールを、広報や議会運営委員会やどこどこがとかいって持って回ったら時間がかかるばかりになる。要綱はもしおかしいのであれば直すようにしないと。
笹田委員	この要綱を読んでも、今の段階ではここまでたどりついてないので。例えば常任委員会等で政策討論会をしましょうという時に、第4条2項に当てはまるわけです。
川上委員	基になる物を作ってやれということですね。
笹田委員	そういうことです。常任委員会であればここに書いてある政策討論会を行うことは可能なのです。そこまでの過程をどうするかという話なので、これは後の話です。今のままでこれでやるなら可能なのです、常任委員会委員長が出せるのだから。
田畑委員	先にボールを投げようよ。
川上委員	投げるのにここを通すか直でやるかだけの問題です。だからここで一応絞っておいて投げるか。
笹田委員	僕は議会運営委員会に1回諮った方が良いと思います。ここは常任委員会の集まりですが、議会運営委員会は会派の集まりになっていてシステムが違います。
川上委員	こういうのが出ましたので使ってくださいと投げれば良いのだな。
澁谷委員	議会運営委員会追認みたいなものが出ていれば問題無いと思います。
笹田委員	これをどうするかというのは、これを分けて何を議論して貰うかを決めてあげれば良い。
小川委員長	何を議論するかは委ねられた常任委員会ですることかなという感じ。

笹田委員	いや、いきなり振っても何して良いか分からないでしょう。何のために議論するか分からないのだから。
小川委員長	だから全体の政策討論会というのがあると、議員間討議で政策を作って例えば執行部に提案するとか……。
澁谷委員	資料があれば参考意見として常任委員会委員長が議会運営委員会のメンバーで、岡本さんと野藤さんがおられたので話を聞いておられて、柳楽さんと西村さんと布施さんにも説明したから、正副委員長として幹事会メンバー。結構常任委員長の意識が大事なのです。
	(「確かにそうだ」といった声あり)
小川委員長	確かに通年会期制にする意義は各常任委員会の活性化も多分含まれていると思うのだけど。その手始めになるのかもしれない。
田畑委員	とりあえずは、どの項目をどの常任委員会に振るか。今の幹事会規定にそぐわないようなことが出てきたら、規程を変えるという前提で。規程に沿うことも大事だが、そぐわないことは変えないと。
笹田委員	でもこれ、開くためだけの規定ですよ。
澁谷委員	これは先進自治体を見て「やらないといけない」と書いてあるだけで、誰も分かってないのだ。
笹田委員	開く方法の規定ですよ。
小川委員長	これ一応3つに分けてますが全部一緒に「出された要望・提言」として一括りにしておいて、それを5つに分けるか3つの常任委員会に分けるか。予算や広報広聴もあるけど主には3つにどう分けるか。それは正副に一任してもらえれば出来ると思います。出来たものを議会運営委員会に。
澁谷委員	正副委員長に一任してもらえらるなら、それは正副委員長の決定がここの常任委員会の決定になるので、それを議会運営委員会に上げてもらえれば。
小川委員長	そういう形で進めさせてもらえれば。
笹田委員	今日の内容も伝えてあげないと。
田畑委員	それを言っておかないと、各委員長の考え方が全然違うということもあるかもしれない。
澁谷委員	政策討論については話しますが、議員間討議については広報広聴からいってもらわないと、私も説明出来るほどの理解はしてない。
田畑委員	話は変わるが、5月に議会報告会をやる時にみなさんから出た意見は執行部に回答をもらって広報に載せてないかな。
小川委員長	載せています。
澁谷委員	一部でしょう。

	そうなるとこれも概ねそういうことをしないと……。 出された意見をホームページに載せることは出来ますがね。 回答は。春はやって秋は回答が無いと言え……。 秋の井戸端会議についてはそういう形式は取ってなかったということです。
小川委員長 田畑委員 小川委員長	井戸端会議は数が少ないのです。
笹田委員	(以下、自由討議)
三浦委員	議員間討議の話ですが、各常任委員会に振られて、これは執行部に確認しよう、でもこれは議員間で討議しましょうと決めてきちんと公開でやって、そこで各議員がこんなことを議論しましたというのが結果として議会だよりも、各議員が議論しています、こういう意見が出ていますといったこと、答えではなく議論している中身を出していくのはどうなのですか。
澁谷委員	そうなるとまた内容の話になるのだけど、それは三浦さんが紹介してくれた丹波市の議会だよりは結果の修正ではなく先の企画力みたいな感じになっているから、そういう形に浜田市も委員長報告や議員の文章を直すことばかりに時間をかけずに、企画について紙面を取っていくように今から変えていかないといけないだろうと思います。
田畑委員	丹波の議会だよりを見ましたか。
笹田委員	視察に行かれた分でしょう。
近重書記	あれならこっちに配信します。
小川委員長	参加された方とそうでない方とで温度差があると思う。
澁谷委員	丹波はどちらかと言うと広報広聴が行けば良かった。
小川委員長	私もそんな気がしました。
三浦委員	先ほどの話ではないですが、各常任委員会の委員長さんがどういう意図で議論を進めていくか……。
川上委員	でもそれは仕方ないのではないですか。
	(以下、自由討議)
笹田委員	議会運営委員会に振る以上はある程度常任委員会に分けて、この材料をどうにかしてくださいということを言わないといけない。
澁谷委員	執行部に回答を求めるか、討議するか、政策討論会で詰めていきましよう。
笹田委員	それを伝えるかどうかです。
田畑委員	着地は、これを原資にして政策討論に持っていく。
笹田委員	そうすると各委員長でやり方が違って良いと思いますが、目的をしつ

	かり伝えてやっていかないと。
澁谷委員	委員会で討議した成果が政策に結び付くように。
川上委員	そこまでいかない場合もあるし。
澁谷委員	行かなければ来年またやるとか。各議員のスキルアップには繋がるだろうという感じはする。
小川委員長	場合によってはこの部分から議員提案の条例案まで行く場合もあると。そこまで行けば一番本望かなと感じます。
笹田委員	委員会から重要案件の意見交換会も触れるかもしれません。
小川委員長	もう少し意見を聞いてみようということも出てくるかもしれません。
笹田委員	それが目的でしょう。
田畑委員	今年の春に議会報告会をやった。色んな会場で出た色んな声を議員が一般質問でほとんど取り上げない現状がある。美川の方から「笹田議員が雇用促進住宅を地元にくれという意見が出たのを議員が取り上げてくれてありがたかったが、もっと言ってくれないと駄目だ」と言われました。皆見えています。「意見は出したが議員はつまらん」が先にくる。要望や、熱心な活動は一般質問で追っかけていただきたい。
澁谷委員	色んな選択肢の中でやっていけば議会に対する信用力も高まる。
田畑委員	「あの人に伝えたのに何も言わない」という声が顕著なのが旭。
小川委員長	それを所管の常任委員会で議論して、やっていることが少しでも伝われば。
田畑委員	真庭に行ってそういうことを聞いて初めて、議会基本条例には謳ってはいるがやっと動き出したものだから一般質問でやったり、そういうのでやった方がいいな。
小川委員長	これを整理して議会運営委員会にお願いする形で進めていこうと思います。井戸端会議で出された要望・提言についてはそういう扱いでさせていただこうと思います。

(2) 反省点について

小川委員長	反省点についてですが、先に近重さんから説明してもらいます。
近重書記	(以下、資料をもとに説明)
小川委員長	8名の方からこのような意見が出ていますので、来年以降の議会報告会並びに井戸端会議の開催に係る事をどのようにするか。益田は1か月間に30か所を一度にやってそれで終わりでしたが、そういう例もあります。実際に参加者が段々減ってきているので何等かの工夫も必要かと思っています。

澁谷委員

この辺は出された意見を尊重しながら来年以降の取組に活かしていければと思います。もしお気づきの点等ありましたら出していただければと思います。

春と秋のパターンは変えないといけないのではないかと考えています。もう市民の人の意見ばかり聞いても人数が減ってきているから、1回は良いかもしれないがもう1回はパターンを変えて。団体と婦人会とか、団体に申し込みしてやっていくか。5回に陣取って待って各議員が対応していく。何か変えていかないといけないという印象はあります。

(以下、自由討議)

今後どうやっていくか。今まで5月の第3週でしたがその日程も、やるなら押さえておかないと、常任委員会の視察を気にしないとですから。そういう日程の捉え方は12月くらいには方向性を固めておかないと。広報広聴の視察も行くなら確保しておかないといけないし。

小川委員長

年1回以上という形でしたよね。小学校区ごとに細かくやった方が良いのかということもあるし。

澁谷委員

地域協議会には必ず案内を出すとか、町内の自治会長さんや行政連絡員さんには必ず案内を出す、何かやり方を変えないと。日程が載っている議会だよりが各家庭の全員に渡っていてもあの参加だから、何か考えないとさすがに少ないなど。最初は人数合わせで職員さんも顔出してくれる方がおられたけど、段々減っていることもあるし。

小川委員長

職員さんだと意見を求められて「お前は分かっているだろう」と言われるとなかなか言いにくいというようなことも耳にします。

川上委員

興味が湧かなかっただけに行かないという人が一杯居る。こんなものに行っても仕方ないというのが一杯居たので困った。

笹田委員

でも、来てきちんと意見を言うてくださるから良いですよ。ただ、議会に対しては興味ですからね。

川上委員

だから議会がどんな役目を果たしているかを皆分かってない。国会を見ているから。議会を国会だと思って見るからだ。

笹田委員

全然違いますよね。

川上委員

それをいかに知らしめるかだ。やはり広報だな。

澁谷委員

議員に言えば何とかしてくれそうだと思うけども、執行権が無いのがやっとなら、議員に力が無いのが分かる。

田畑委員

議員と地域住民との距離感があり過ぎるのよ。三隅にいてこれだけ、市内に居たらまだ酷い。

川上委員	これも広報だ。
小川委員長	そこをいかに近づけるかという中でこういう取り組みをされてきたのではないかと思います。参加者を見ると、興味が持てるような中身になっていないのではということで色々工夫しました。今回は呼びかけのチラシ・ポスターも工夫していただいたりして。進め方についてこちらの力量も底上げしないといけないということで資料を作っていただいて勉強してきたのだけど、その辺りが市民の皆さんになかなか伝わりにくいというか、結果的に見れば少しずつ参加者は減ってきています。何らかの工夫が必要です。
澁谷委員	どこの議会も苦しんでいます。視察に行かせていただいても「この方法で起死回生しました」といった話は聞きません。新しい方式に挑戦しているという感じですね。
笹田委員	無理やり数集めするのも違いますよね。
澁谷委員	多ければ良いというものでもないしね。
笹田委員	目的を絞ってやるだとか、そういう方向になっていくのかと思ったりするのですが。
田畑委員	やり出してから変わったのは美川だな。
笹田委員	三浦君は美川に行ったこと無いでしょう。
三浦委員	ないです。
笹田委員	でしょう。村武さんも行ったことないと言っていた。川上さんくらいですよ。
川上委員	誰も行ったことないというのが信じられなかった。
笹田委員	普通行かないと思います。
川上委員	長い間地域協議会に関わっていたからいかに力が無いことが分かっているから議会に期待してみようかと思ったのだけど、これは駄目だということが分かった。やはり議会そのものを知ってもらう必要があるので、この機会は必要だと思います。対象者が住民なのか各団体なのかは検討余地があるし、時期や場所の問題もある。深く検討する必要があるのではないかという気がします。
小川委員長	スケジュールの関係もあるので3月議会までには……それでは遅いですか。
澁谷委員	12月段階でやるかやらないかは……。
三浦委員	先ほど澁谷さんがおっしゃった関係団体の方との意見交換は無いのですか。
澁谷委員	それは向こうから依頼があったら。

篠原次長	前議会の時に2団体ありました。
小川委員長	商工会青年部とやったのは広報広聴でしたね。
澁谷委員	ピックアップしてみる手はあると思います。
田畑委員	前は各常任委員会の重要案件への意見を出してもらっていた。それで議会と意見交換しませんかといって広聴していた。
川上委員	井戸端会議の資料がそこで活かせるかもしれない。
田畑委員	これから次のステップに進む時は各常任委員会で揉まれたものを、結果がどうなるかは別として、そういった広報はすべきだと思う。
澁谷委員	とりあえずこのメンバーがかなり重要なポジションに就かないといけないと思います。常任委員長を班長にするにしてもサブはこのメンバーにしていけないと今一つ通じないというか。
笹田委員	委員長さんがそういう気持ちがないとなかなか下もサポートできないです。
澁谷委員	そうするとこのメンバーが班長になるしかないのだけど。皆さんが了承してくださるならそれが一番です。そうすると皆ここに任せきりになる、それもどうかと。その時にはせめて常任委員長は柱だからやってもらわないと思うけど。ここで視察させてもらった内容の話をすると、それなりに意識が高くなってきますよね。他の委員長さんは、また役が回ってきたかくらいの感覚でしょうが。
田畑委員	今日これを分けるのか。 (「正副委員長に」 という声あり)
小川委員長	早急にそれは。この分については出来れば12月議会で開催する、広報広聴委員会の中でも方向性を出せれば早めに出すということで、ご意見があればまとめておいて貰えればと思います。
澁谷委員	12月最初の委員会を初日にやりますよね。その時にやりますか。ある程度やってもらおうと12月中の議会運営委員会でもう振り分けてやりたいなど。1月からは常任委員会で計画立ててやって欲しい。遅くなるとスタートが遅れる。
澁谷委員	12月議会の表決の時には必ず議会運営委員会があるので、その時にはもう振分なってるよね。常任委員会は1月から考えましょうという。
川上委員	仕分けは良いけど、1回広報広聴の委員から了解を得た上で議会運営委員会に投げる。目的も全部書いて。 (以下、自由討議)
小川委員長	分かりました、そのように進めさせていただきます。

(3) 提出された意見等の取扱について

(4) 今後の運営方法について

(5) その他

小川委員長	(3)と(4)ですが、もう話が出た感じがするので、補足があれば。資料が出ているのでこれだけ説明してもらえたら。
近重書記	(以下、資料をもとに説明)
小川委員長	井戸端会議については以上でよろしいですか。その他あれば。 (「なし」という声あり) では次へ参ります。

2. はまだ議会だよりについて

(1) 議会だより作成マニュアルの変更について

小川委員長	今回もスケジュール的に詰まった形で原稿締切等が入っています。資料4から説明をお願いします。
近重書記	(以下、資料をもとに説明)
小川委員長	編集細目ということですか。黄色の。あれを少し見直していこうということで。議会だよりの原稿を作る段階での注意事項だとか。これは田畑さんが委員長の頃から積み上げてきていますよね。それに基づいて原稿を出してもらっていますが、毎年研修を受けた結果を基に工夫したりしているけどそれを細目で謳っていないもので。講師の先生も毎年変わって指摘事項が変わると、それを取り入れるか取り入れないかという詰めをしてない中で流れた部分があったので、そこをきちんと細目に謳うことで皆さんに周知徹底を図っていきながら進めていくということで出ているので。これは講師から指摘があったけど別に今のままで良いということもあると思いますが、そういったことは変更の必要はないと思います。ということで細目の見直しが出来ればと思います。これもまた急ぎはしませんが、今後検討をお願いします。この件はこれで良いですね。

(2) はまだ議会だよりVo1. 52掲載記事について

小川委員長	説明をお願いします。
近重書記	(以下、資料をもとに説明)
小川委員長	特に変わる所は特1特2の議会改革関係で、これも議会改革特別委員会の 中で議長からも要望が出されていたとこです。浜田市議会の議会改革とし

て先進的な取り組み部分を広げた方が良いのではということがあったので。具体的には議会だより内で変わる点が多いので、その辺を中心に議会改革の進捗状況、ここまでやっていますというのをアピールする必要があるのではないかというのがこの趣旨だと思います。それを今回こういう形でページ数を増やししながら載せていくことを検討しています。

あとは事務局から説明があったようなことですが、何かご意見等がありますか。日程的には厳しいスケジュールになりますが。

澁谷委員

委員長報告が、今までのパターンを条例の一部改正の条例を可決しましたというような、書いても分からないようなものを載せるべきなのかという点があって、もっと簡潔にしていきながら最初の日の時に今回の条例や議案の中で、予算案にしてもこれが一番重要だというものを詳しく説明したりだとか、ちょっと工夫しないといけないかなと。それを、今まではどちらかという各委員の誤字脱字を直したり、文章を直すのに何時間もかかっているでしょう。そうではなく、という感じ。今回の12月からやれというわけではないですが、そのレベルから脱出しないと企画したり、ではこれで市民の方にインタビューしましょうとか、違ったことにならないだろうなど。それを皆で意見しながら今回企画どうしましょうとか。先日真庭市に見てもらって、褒められたのは三浦さんの表紙とか。うちのやり方も誤字脱字を直せば委員長の名前を書いて、議員は議員の責任よ。さすがに誤字とかくらいは少し直すくらいにしてどうかと。その辺に脱皮したいなと思ったりするのですけどね。

川上委員

文章については確かに必要だと思うので出しても良いと思います。委員会についての委員長報告をそこまで求めるかは別にして。

笹田委員

僕も澁谷さんと同じ意見で、委員会報告のこのページ見ているのかと思う。結局賛否の公開が出ているわけで、委員会で議論しようが何しようが市民にとっては賛否が全てで、そちらが可決されてこちらが否決ということはあるけどほぼないので、そういう事態があった時にだけやれば良いと思います。それより色々企画して見てもらうようにしてもらった方が。

田畑委員

丹波のを見ると余計に面白くない。

川上委員

政策討論の前の段階がここに生きてくるのかなと思います。

笹田委員

この間のように弥栄の件が出た時にはきちんと書かないといけないと思いますが、ほかに上位法書いたりとか。ああいうのは要らない。

澁谷委員

あとは常任委員会で今回の議会ではこれが一番重要だということについて書いて貰うとか、市民との距離が近いねとか。

小川委員長	だから今までの流れでは、ほとんどの原稿は委員長報告をコンパクトにまとめただけみたいなものが出てきて分かりにくいし、文章的に言うところの前の総務文教のものは全面的に書き換えてもらって、結局それをまとめたものではなく市民の皆さんが知りたい部分をどうまとめていくかに力を入れて書き直したのだけど、その方が分かりやすい部分はありませんでしたね。
田畑委員	一気にというのは無理があるから、徐々に変えていく目標を示しておかないと。
笹田委員	今回やってみませんか。
小川委員長	その辺りも今まではほとんど委員長にお願いする責任を持たせていたけど。
	(「仕事が増える」という声あり)
笹田委員	仕事が増えるといっても皆そうではないですか。委員長報告をコンパクトにしても各委員会直すようなでしょう。それが伝わってない気もするし。だったら今回の議会でこれ必要だと思った分を依頼してでも書いて貰って。市民が興味ないものを書いても。
近重書記	夏の研修で委員会審議の例として挙げられました。
笹田委員	こうなると見やすいもんな。
近重書記	条例関係はこういう形のものがあったりとか。
近重書記	はい。同じ議会のフォルダの中に入っています。中が2色刷りなので緑とグレーになっていますが。
笹田委員	賛成2人反対2人も書いてあるし。1つの案に対して賛成も反対討論も部載っている。
近重書記	記載例を出さないといけませんね。
川上委員	こうしたら目が行くのではないかな。
田畑委員	一番のネックは字が小さいのよ。
三浦委員	編集にプロが入っていると思いますよ、これはデザイナーの仕事ではないから。今の浜田の議会だよりは業者さんが情報をレイアウトするだけになっていて、こちらが編集作業をしています、業者はやってないと思います。やっているとしたらそこに編集者・企画者が多分いると思うので。
笹田委員	ではこれは議会がやっているということ。
三浦委員	議会側で議員が、これくらいの情報にまとめましようとしているか、業者に投げているとすれば印刷会社さんに投げているのではなく、企画者がいて編集者がいて情報をきちんとまとめているかどうか。だから誰かがやっているということ。

川上委員	多分議会ですよ。
澁谷委員	真庭市みたいにソフトを持っているとか。
三浦委員	多分抜本的に、ここ読まないのではとか、こういうふうにした方がいいのではとやるとレイアウトがかなり変わってくるので、今のお話を1回企画書に落とし込んで敲き台でやっていった方が良いのかなと。ただ、田畑さんがおっしゃったようにいきなりそれを委員長に丸投げするのはなかなか難しい。まず限られた今のスペースでこういうことをやってみようというように表現を変えていきつつ、どこかのタイミングでそれをベースにして変えていく。
小川委員長	当初から言われていましたよね、細かい所を改善していきながらも、どこかで抜本的な紙面の改善というか。
三浦委員	こういうことを伝えるものにしよう、なのでこういうページ構成にしていきたいと思いますという。
澁谷委員	そういうのは全部三浦さんに丸投げしてしまうからな。
三浦委員	企画書を書いてみて皆さんに議論していただいて。
川上委員	全体でなくて良いから、委員会だけでも良い。
澁谷委員	多分三浦さんの頭の中には出来ているから。
笹田委員	出来ることと出来ないことをしっかり議論して。
三浦委員	そうですね、議論してもらえば。
田畑委員	よし、そういうことで。

(3) その他

小川委員長	議会だより関係でその他ありますか。 (「なし」という声あり)
-------	-------------------------------------

3. 次年度行政視察について

(1) 視察内容の検討について

(2) その他

小川委員長	資料を付けていただいています。
近重書記	(以下、資料をもとに説明) とりあえず委員会の中で、どういった課題があって解決しないといけな いかを出していただきながら幹事さんを決めて、どの辺りに行くかという 話を進めさせていただければと思います。それを決めるための資料を作っ ていますが、もしこれが参考に使えれば使っていただければと思います。

澁谷委員
田畑委員
澁谷委員

11月30日締めでアイデアいただければ組み立てやすいと思います。

4、5月の第何週にするかは早く決めて欲しいのですよね。
春の議会報告会もあるし。

今回福祉環境委員会が6月議会が終わって大雨が降って皆に心配をかけたでしょう。だから7月は行きにくいということになると、4、5月は結構込むかなと。それかもう秋にするか。早く押さえた者勝ちになってしまうから、そうすると相手先がまた難しいかもしれない。

近重書記
田畑委員
近重書記
澁谷委員
近重書記
澁谷委員

1週間よりもっと前という話もされましたね。

だいたい5月の10日過ぎに議会報告会をやっていたらう。

だいたい中旬です。今年度は先に報告会をしてから視察に行きました。
今年度は5月の最終週だな。

はい。

4月は相手先の人事異動があって捕まえにくいというのをよく聞きますが、そうしたら常任委員会は5月に行くのかと。戻ってきたらまた行かないといけないというパターンは今一つ印象に残らなかったりするから、整理する時間が要る。正副委員長と近重書記で考えてよ。12月最初に日にちくらいは言ってもらえるように。その時に先ほども言った議会報告会のパターンもどうするかも決めないといけないし。1週間かかるならその1週間を空けないといけないし。土日一気にまとめてなら関係ないし。

(以下、自由討議)

小川委員長

視察内容等はまたご意見があれば、まとめておいていただければと思います。

澁谷委員

あとは新人議員さんに配慮しないといけない。田畑副議長や私らはもう出なくても良いけど、これからの議員さんが意見を聞くような委員会でないとい。

4. その他

小川委員長
近重書記

その他で何かありますか。

少しお願いがあります。市議会ホームページのトップに皆さんが議席に座っておられる写真がありますが、あの画像を9月に撮った開府400年ポロシャツを着ていただいた画像に変換させてもらいたいのと……。

(「良いよ」という声あり)

もう1つは井戸端会議の時に折角プロフィールを作ったので、あれをどこかしらに入れさせてもらえないかと。

澁谷委員	そういうことは事務局と委員長でどんどんやってもらって良いのではないの。
近重書記	良いのですかね、一応お諮りしておかないといけないかと思って。
澁谷委員	全員に諮らないといけないほどのものでもないというか。そのくらいや っていかないと正副委員長の権限がないから。
田畑委員	それは良い。
近重書記	では利用させてください。
小川委員長	よろしくお願いします。その他皆さんからありますか。 では次回は12月3日の本会議終了後ということでお願いします。よろし いですか。
	（ 「はい」という声あり ）
	以上で議会広報広聴調査会を終了します。

〔 11時 28分 閉議 〕

浜田市議会調査会規程第6条の規定により、ここに調査会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 小川 稔宏